

令和7年度 学校評価 報告書

松江市立中央小学校

【学校教育目標】			心ゆたかに　たくましく生きぬく　子どもの育成		【めざす子ども像】考える子　やさしい子　がんばる子		
重点目標			結果		良好な点（○）課題点等（●）	改善策	
○保護者 ●児童 対象項目	教育方針・学校経営	①こどもを考えた教育方針、わかりやすさ ②教職員の強みとチームワーク	① プラス評価 97% マイナス評価 3% ② プラス評価 93% マイナス評価 7%		○ プラス評価が90%以上の高評価であった。 ○ 昨年度よりプラス評価が増加した。 ○ 様々な会合の機会に学校の取組を継続して紹介し、啓発した効果が高い	・ 今後も取組紹介の内容や機会について工夫検討し、具体的にわかりやすく伝わるようにしていく。	
	学習指導	①基礎基本の定着や学力向上の取組 ②学習や活動に向かう「体づくり」 ③読書の推進 ④わかりやすい授業の実践 ⑤地域とかかわる活動 ⑥学習の適切な評価 ①わかりやすい授業 ②読みたい本がある	① プラス評価 93% マイナス評価 7% ② プラス評価 95% マイナス評価 5% ③ プラス評価 92% マイナス評価 8% ④ プラス評価 91% マイナス評価 9% ⑤ プラス評価 98% マイナス評価 2% ⑥ プラス評価 95% マイナス評価 5% ① プラス評価 94% マイナス評価 6% ② プラス評価 77% マイナス評価 23%		○ プラス評価が概ね90%以上の高評価であった。 ○ アンケート調査や委員会活動を通じて、こどもに合った図書を充実させるよう努めた。 ● 読書、分かりやすい授業、読みたい本の項目は微減している。しかし、読書は70%台だったものが、ここ3年間は90%台と高評価が続いている。	・ 「おすすめ本」や「完読表彰」の取組をさらに充実させていく必要がある。また、「教職員の読み語り」などの取組を充実させ、本(読み聞かせ)に触れる機会を増やしていくことも検討する。 ・ 読みたい本については、プラス評価の増減を繰り返している。その時々の子どもの興味に合わせた選書は難しいと思われるが、状況把握に努め、本を読みたいという気持ちを高めていくよう、さらなる工夫を講じていく。	
	教育相談・生徒指導	①教職員の話しやすさ（教育相談） ②生活指導の適切な指導 ③こどものトラブルへの対応 ④教職員のこどもへのかかわり（ほめる） ⑤こどもの立場に立った対応 ⑥こどもや保護者との関係づくり ①教職員の話しかけやすさ ②教職員の声かけ	① プラス評価 89% マイナス評価 11% ② プラス評価 89% マイナス評価 11% ③ プラス評価 88% マイナス評価 12% ④ プラス評価 88% マイナス評価 12% ⑤ プラス評価 88% マイナス評価 12% ⑥ プラス評価 92% マイナス評価 8% ① プラス評価 86% マイナス評価 14% ② プラス評価 85% マイナス評価 15%		● 多くの項目で微減しているが、プラス評価は80%後半となっている。 ○ こどもや保護者との信頼関係を築く日々の努力が、⑤、⑥のプラス評価増につながっている。いずれも昨年度の新規項目であるが、教職員が意識して取り組んだ結果とも受け止められる。	・ 教職員の児童や保護者への直接的な対応についての評価が低くなっている状況である。教職員がお互いの指導や声かけの在り方について助言し合えるような職場風土を醸成するよう、管理職を中心に進めていきたい。 ・ 学年部での協議の時間を定期的に設け、お互いの指導について見合ったり、話し合ったりすることができるようにしていきたい。	
	教育環境・学校安全	①安心安全な教育環境 ②事故災害等の適切な対応 ①楽しい学校 ②楽しい学級 ③校内の整理整頓 ④安全な学校	① プラス評価 93% マイナス評価 7% ② プラス評価 98% マイナス評価 2% ① プラス評価 83% マイナス評価 17% ② プラス評価 87% マイナス評価 13% ③ プラス評価 89% マイナス評価 11% ④ プラス評価 87% マイナス評価 13%		○ 十分に安心安全とは言えない面もあるが、対応については適切であるという評価と受け止められる。児童の安全な学校のプラス評価は昨年度を上回った。 ● 楽しい学校、楽しい学級のプラス評価が90%を下回り、昨年度よりも3～4P 減少している。	・ 十分に安心安全とは言えない面もあるが、対応については適切であると考えられる。特に、3年に1度の「引渡し訓練」を実施したことが大きな要因であると思われるため、定期的な開催を続けていく。 ・ 楽しい学校、学級の評価について、教職員一人一人が課題を整理し、検討する場を設ける。	
	開かれた学校	①学校・学級だよりでの発信 ②来校者への適切な対応 ③小中一貫教育の推進	① プラス評価 97% マイナス評価 3% ② プラス評価 94% マイナス評価 6% ③ プラス評価 88% マイナス評価 12%		○ 来校者への適切な対応のプラス評価が、昨年度より9P 増加した。情報発信についても微増した。	・ 来校者対応については、課題であることを教職員で共有し、適切に対応するよう心掛けてきた。来客があった時の速やかな対応や要件の確認など、丁寧な対応を継続する。	
	学園共通項目 ①②③④は新規項目	① ① 自分の考えをもった話し合い活動 ② ② 早寝早起き、メディアコントロール、生活リズム ③ ③ 家庭や地域でのあいさつ ④ ④ 人が傷つくことのない言葉遣い	① プラス85%　マイナス15% ① プラス68%　マイナス32% ② プラス71%　マイナス29% ② プラス79%　マイナス21% ③ プラス80%　マイナス20% ③ プラス84%　マイナス16% ④ プラス81%　マイナス19% ④ プラス83%　マイナス17%		● 総じてプラス評価が低い状況である。①、②については、児童と保護者の評価に大きな差がある。 ● 早寝早起き、メディアコントロール、生活リズムのプラス評価が保護者・児童ともに低い。	・ 生活リズムやメディアに関連する内容のプラス評価が低い。メディアコントロールウィークの取組について時期や回数、チェック内容など検討し、まっえ天神川学園の課題として共通理解・共通実践を進めていきたい。	
職員対象項目	（１）主体的に学ぼうとする子に向けての施策			＜研究部＞ ○ プラス評価は 90%を越え概ね良好であり、「考える子」の具現化に向けた取り組みは効果的だった。特に、研究の柱としている「話す・聴く・対話」については、昨年度を上回った。 ● ICT 教育の推進においては、ICT 推進教員とうまく連携を図りながら研修の継続的な実施をすることができなかったため、ICT の効果的な活用方法を提案できなかった。 ・ ICT 教育の推進のために、研究部に ICT 推進教員の配置し組織的に取り組んでいくようにする。また、具体的な系統表を作成し、クロムブックで各学年で何を身につけておくといのか、見てわかるようにする。			
	①子どもが主体となる授業づくりの推進 ②子どもの基礎・基本の定着		① プラス評価 96% マイナス評価 4% ② プラス評価 100%				
	（２）自分の考えをもち表現する子に向けての施策						
	①様々な表現方法の活用の推進 ②個別支援の充実 ③話す力・聴く力の向上 ④対話力の向上		① プラス評価 91% マイナス評価 9% ② プラス評価 90% マイナス評価 10% ③ プラス評価 95% マイナス評価 5% ④ プラス評価 96% マイナス評価 4%				

職員対象項目	（３）学びを深め豊かにする子に向けての施策		● 漢字会や計算会においては、各学年で作成した問題をフォルダに残すことが徹底できなかったため、参考にしようとしても問題データがないという状況があった。 ・ 漢字会や計算会の取組を充実させるため、データだけでなく、紙で保存、引継ぎできるよう年度初めにファイルを作成する。			
	①単元を通した授業づくりの推進	① プラス評価 9 1 % マイナス評価 9 %				
	②自学ノートの適切な評価	② プラス評価 9 1 % マイナス評価 9 %				
	③図書館活用教育の充実	③ プラス 1 0 0 %				
	④ICT 教育の推進	④ プラス評価 8 6 % マイナス評価 1 4 %				
	（４）自分に自信をもち明るくたくましい子に向けての施策			＜生徒指導部＞ ○ プラス評価は 90％を越え概ね良好であり、「やさしい子」・「がんばる子」の具現化に向けた取り組みは効果的だった。職員会議等の際の情報交換や教育相談週間などの取組が成果として表れたものとする。 ● ICT 教育と関わって、情報モラル教育の推進が欠かせないが、その推進が進んでいない。 ・ 学年親子活動を企画する等、保護者一緒に情報モラルについて学ぶ機会を設ける。 ● あいさつをしない児童が多くなっている。 ・ PTA 専門部と連携し、地域に向けたあいさつについて話題にする。校内では、集会や縦割り班活動等折に触れて話をしたり、運営委員会の取組を紹介したりするなど、具体的な取り組みを進める。 ● 全校が体育館に集まった時の態度（整列の間隔やおしゃべり）が整っていなかったり、廊下を走る児童が多かったりする。 ・ 教師が指導の観点と指導の重点を共有し、共通実践していく。		
	①自分に対しての AKSZ の徹底	① プラス評価 9 6 % マイナス評価 4 %				
	②機会の設定などを通して縦割り班活動（そうじを含む）の充実	② プラス評価 9 6 % マイナス評価 4 %				
	③キャリア教育の推進	③ プラス評価 9 6 % マイナス評価 4 %				
	（５）相手をおもいやり助け合う子に向けての施策					
	①相手に対しての AKSZ の徹底	① プラス評価 9 1 % マイナス評価 9 %	＜体づくり部＞ ○ チャレンジカード、エクササイズ、外遊びなど、継続して取り組んでいることについては、教職員の共通理解も図られ、プラス評価90％を越え良好であり、「がんばる子」の具現化に向けた取り組みは効果的だった。 ● 中央っ子サーキットや階段一段飛ばしについては、取組の意義などが受け継がれていないことが、評価が低くなった要因であるとする。 ・教職員間で継承すべき事項を知りしながら、今の児童の状況に照らし合わせて、取組を工夫・改善していく。また、「中央小の体づくり」について教職員では研修し共有しているが、委員会活動と連携するなどして児童にも伝えていく必要がある。			
	②協力できる場として縦割り班活動（そうじを含む）の充実	② プラス評価 9 6 % マイナス評価 4 %				
	③道徳教育の推進	③ プラス評価 8 6 % マイナス評価 1 4 %				
	（６）ちがいを認め大切ににする子に向けての施策					
	①特別支援学級や通級指導教室の理解教育の充実	① プラス評価 9 1 % マイナス評価 9 %				
	②低学年で人物画による児童理解の推進	② プラス評価 1 0 0 %	＜教務部＞ ○ 情報発信、情報交換については、全てにおいてプラス評価100％と高評価であった。 ○ 評価の2期制により、学期末の業務負担が軽減され、こどもと向き合う時間を設けることができた。 ● 交流・小中共同のあいさつ運動とキャリア教育については、マイナス評価が多く、見直し、検討していく必要がある。 ・地域の保育園等との交流が2年目を迎え、交流の幅を広げたり、小学校について知ってもらう機会にしたりすることを今後も継続していく。 ● 業務が多岐にわたり、行事等の窓口も不明確であったため、業務を円滑に進められないことがあった。 ・ 教務部の役割や業務内容を整理するとともに、交流活動などの窓口を明確にしたり、他の分掌や学年部との連携を密にしたりすることで、業務の円滑化や教職員との共有を図っていく。			
③人権教育の充実	③ プラス評価 9 6 % マイナス評価 4 %					
④共通した児童観を確立した児童理解	④ プラス評価 9 1 % マイナス評価 9 %					
（７）進んで体をきたえる子に向けての施策						
①チャレンジカードの積極的な活用、進んで体を動かす習慣の定着	① プラス評価 9 5 % マイナス評価 5 %					
②体育の導入での中央っ子サーキットの実施	② プラス評価 7 1 % マイナス評価 2 9 %	（１２）積極的な情報発信と双方向の情報交換について				
③階段一段とばしの奨励	③ プラス評価 4 8 % マイナス評価 5 2 %					
④中央っ子エクササイズの全校での取組	④ プラス評価 9 6 % マイナス評価 4 %					
⑤外遊びの奨励	⑤ プラス評価 9 1 % マイナス評価 9 %					
（８）気持ちよくふるまい、ほがらかな子に向けての施策						
①言葉遣いやよい行いなどの指導を通して、AKSZ の徹底	① プラス評価 9 6 % マイナス評価 4 %	①学級・学校・学園のたよりの定期的な発行 ②ホームページの充実 ③それぞれの評価の PDCA サイクル ④教育後援会・学校運営協議会・学園教育推進会議・PTA の会合での、学校の様子を紹介・意見交換の場の設定				
（９）最後まで粘り強く取り組む子に向けての施策						
①全校でのちゅオリンピックの取組	① プラス評価 8 9 % マイナス評価 1 1 %			① プラス評価 1 0 0 % ② プラス評価 1 0 0 % ③ プラス評価 1 0 0 % ④ プラス評価 1 0 0 %		
（１０）幼小中およびまつえ天神川学園の連携について						
①幼小での生活科交流（おもちゃランド等）の実現	① プラス評価 1 0 0 %					
②中学校体験と交流、小中共同でのあいさつ運動の実現	② プラス評価 8 6 % マイナス評価 1 4 %					
③キャリア教育に関する年間計画に沿った授業の実施と内容改善	③ プラス評価 7 7 % マイナス評価 2 3 %					
④行事などの振り返りによる学年に応じたキャリアパスポートの作成	④ プラス評価 9 6 % マイナス評価 4 %	①カリキュラムマネジメントから総合的な学習や生活科を中心とした単元配列表の作成 ②学校運営協議会での、地域のひと・もの・ことを生かした取組の紹介と委員から提案の場の設定				
（１１）地域のひと・もの・ことを生かした学校運営について						
①プラス評価 9 6 % マイナス評価 4 %	学校関係者評価					
② プラス評価 9 5 % マイナス評価 5 %						
保護者に対して：学校だよりの配布、ホームページへの掲載、PTA役員会・総会での説明 地域に対して：学校だよりの回覧、ホームページへの掲載、評価委員会委員への資料による説明						
公表先及び公表方法						
・ 校区に公民館が2つあることをこどもたちもうまく利用しながら、地域参加がなされている。学校も強みとして考え、地域との交流を通してこどもの活躍の場の広がりがある。 ・ 読みたい本が少ないことにも関連するが、メディアや ICT の取組の課題を整理する必要がある。こどもたちはプレゼン資料やタブレットによる記録などよく使われている。教職員研修を行うなどして改善を図るとよい。 ・ 学習の基盤づくりとしての体づくりの取組を積み重ねているが、スポーツテストの結果が低いこともあるので、以前の取組を参考にして運動面での向上が図られるとよい。						

赤字：前年度比2P 以上上がったもの。

青字：前年度比2P 以上下がったもの。